

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、佐鳴台圏域） 第2回会議 議事録

| | |
|------|--|
| 開催日時 | 令和5年11月20日（月）9時30分から11時10分まで |
| 参加者 | 委員：16人 事務局：9人 |
| 場所 | Uホール 23会議室 |
| 内容 | <p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 佐鳴台・城北地区生活支援体制づくり協議体 会長</p> <p>3. 第1回協議体会議の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント資料を用いて前回の振り返りをした。 ・佐鳴台地区グループワークにて挙げられた選定場所へのフィールドワークを報告 <p>4. 地域ケア会議アンケートについて報告 【地域包括支援センター佐鳴台】</p> <p>10/10.10/23 に行われた地域支援者と福祉専門職との検討会～大規模災害時の要支援高齢者避難等について考える～（佐鳴台圏域ケア会議）報告があった。</p> <p>参加者のアンケートからも、避難行動要支援者制度について対象者へのアプローチ、制度周知の必要性が大いに感じられた。また郵送での制度案内があっても、自身で申請することの難しさや、自治会・民生委員やケアマネジャーそれぞれが情報を持っていても共有できていない。例えば包括が入って要支援者となる方の地域支援者との計画検討の場を調整ことで、連携の仕組みを構築できるのではないか。有事の見守りは平時にも活用することが出来る。</p> <p>5. 各地区でのグループワーク</p> <p>《佐鳴台地区》 本格的に動き出すためにベンチプロジェクトを立ち上げるのはどうかと提案。</p> <p>① 改めてベンチプロジェクトについて話をしている流れを振り返る</p> <p>② 事務局が提案したプロジェクト案について</p> <p>◎設置場所について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置場所がなかなか見つからない。 ・実際、住宅街には置くことは難しいのではないか。 ・新たに設置するよりも、今ある公園のベンチを綺麗にしたらどうか。地区内には3つ公園があるが、ベンチの老朽化が進んでいる <p>◎ベンチの予算・ベンチプロジェクトとしての予算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大体どのくらいで購入することができるのか ・実際にプロジェクト化した場合、予算はどこから持って来るのか。 ・例えば、赤い羽根共同募金や、様々な財団で行っている基金に応募する事を提案。 ・自治会等から出ないかと意見も出た。 <p>◎管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベンチを置くとしても、安全性がしっかりしたベンチでないと難しい。また、今後地域に置くことを想定した場合、管理者はどこになるのか。点検も必要でないか。 <p>◎企業の協力を得る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐鳴湖公園の西側には株式会社遠鉄ストアが寄贈したベンチが設置されているとのこと。 <p>◎季節、気候的にも屋内に集える場所が良い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば協働センター内の図書室となっている場所がフリースペースになるといい。 |

| | |
|----------------|--|
| | <p>◎実際、想定する場所を利用している人がいるのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域には交通安全推進委員がおり、週に複数回地域内をパトロールしているので、日中の高齢者がどこに集まっているのか等を聞くのはどうか。同じく自治会長にも情報を聞くことも良いのではないか。 <p>《城北地区》 地区内の見守りについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の団体の機能や活動のなかで 大きな枠組みの見守りはされている ・日頃の関わりの中で、何かあった際には隣保から自治会役員に情報が伝わる伝達の仕組みがあり、近隣住民が見守りの機能を果たしている一面もある。 ・集合住宅の場合、自治会未加入世帯であると関係性がないのが実情である。 ・本人が外部との関わりに消極的・否定的な方を見守りは難しい。 <p>◎民生委員・日頃の見守りに関する自治会等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蜷塚では2ヶ月に1回民生委員と自治会関係者で情報共有をしており、自分の担当地区以外のことも把握でき、機能していると感じる。 ・代表者の集まりでは進まないところもあるので、現場に近い人の集まりでないと友好的な見守りにならない。 ・関係者での見守り会議・ケア会議のような情報を共有する仕組みがあると良い。 ・歳末訪問事業などの訪問ができるようなツールや、対象者の状態に合わせ（段階に応じた）仕掛けがあると良いと感じる。 ・自治会でも業務の負担軽減が求められており、過度な負担は賛同が得られない。 ・あんしんネットワークの協力事業所などと地域関係者が一堂に介し、情報交換・意見交換をする場があっても良いのでは。 ・特定の関係者のネットワークと、より多くの人たちがネットワークに参加できる仕組みも必要。あんしんネットワークの普及活動など ・年間、募金に関する活動が4つあり、自治会で一括納付という意見もあるがあえて各班長に訪問してもらっていることで見守りになっている。 ・見守り会議など各町の実態を調べる。 <p>6. 事務連絡 第2回協議体会議日程 11月開催予定</p> <p>7. 閉会 佐鳴台・城北地区生活支援体制づくり協議体 副会長</p> |
| <p>今後の見通し等</p> | <p>各地区で必要となる支援について協議を行った。</p> <p>佐鳴台地区は、ベンチプロジェクト案として提示を行ってはみたが、新たに設置するには場所・費用・管理と検討していかなければならず、まずは既存のベンチを修繕していくほうが地域で活用の見込みがあるのではないかと意見もいただいた。地域の実情を知るためにも、交通安全推進委員や各自治会長にも日中の高齢者がどこに集まっているか話を伺っていきたい。</p> <p>城北地区の今行えている見守りについて情報共有が出来た。地域との関係性がない世帯や本人が関わりに消極的また否定的な方への緩やかな見守りを検討していく必要もあるのでは。各町での見守り会議などの実態を調べる。</p> |